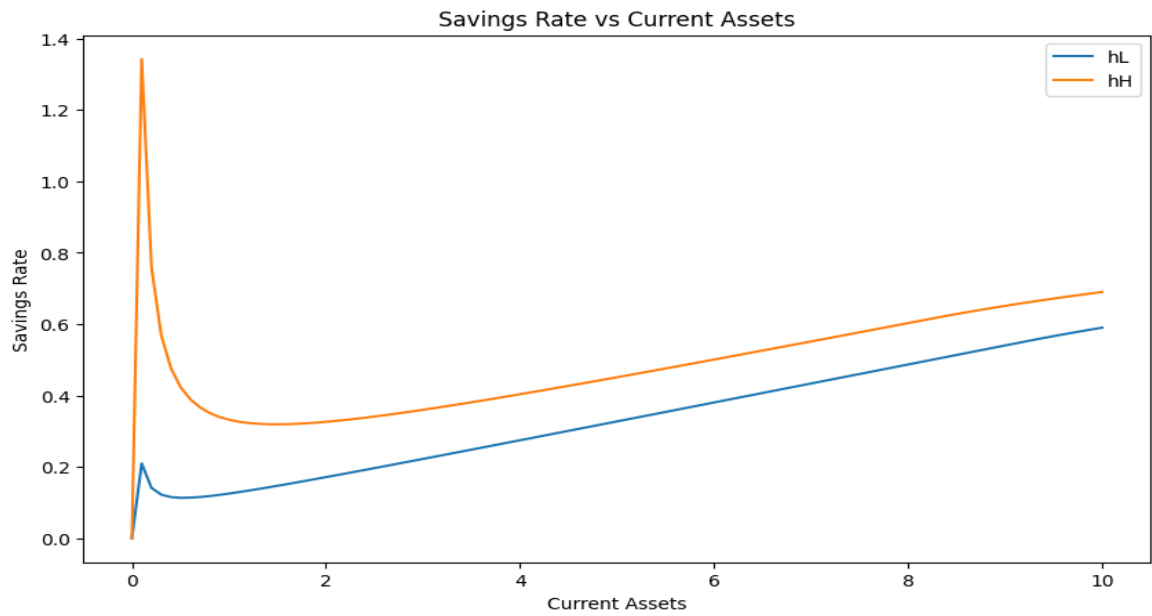
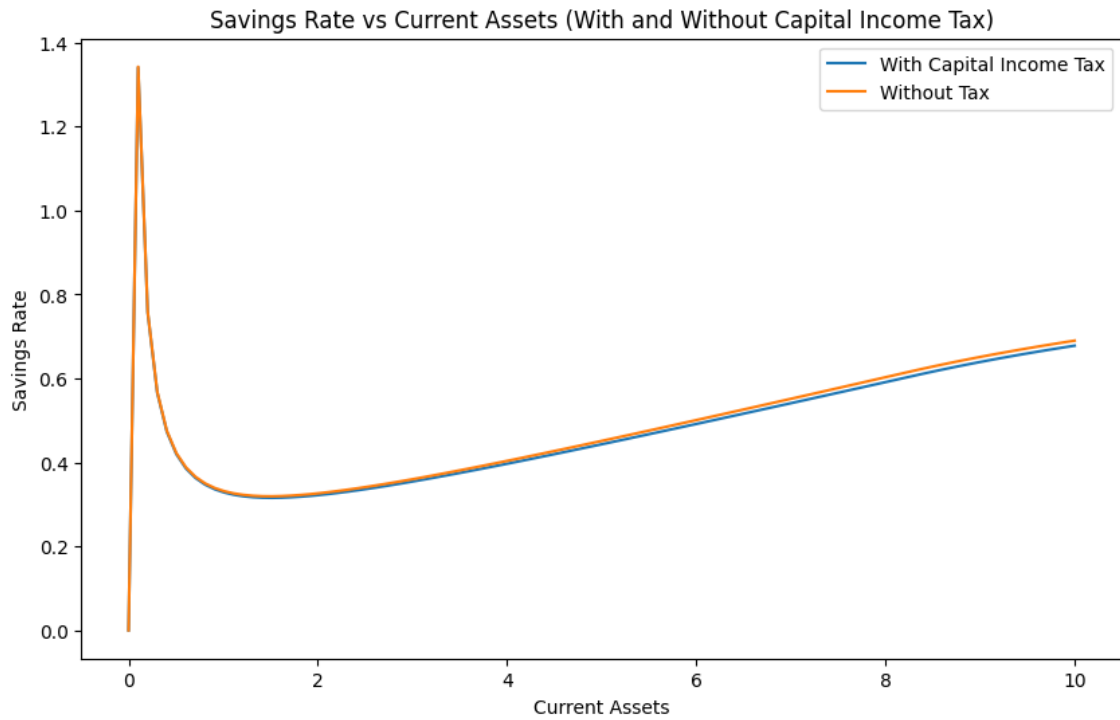


1,



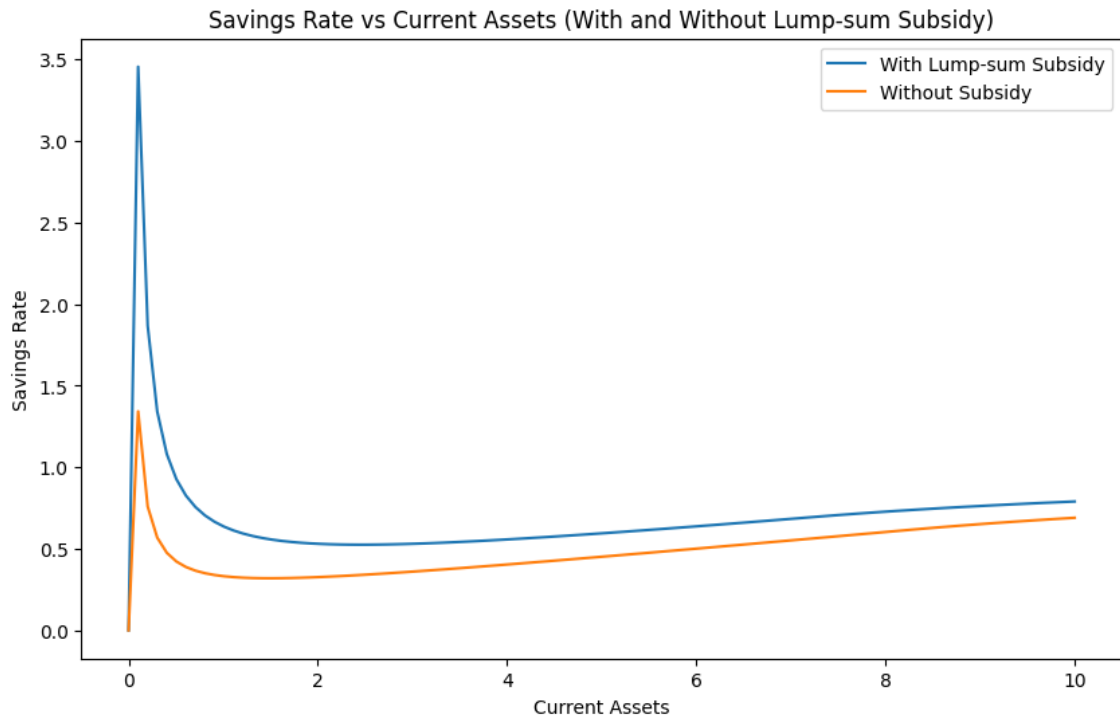
→貯蓄率は現在の資産の増加関数であると思う。直感的な理由としては、資産が増えると、将来の消費をより多く確保するために、現在の貯蓄が増える傾向があるためである。資産が少ない場合は、基本的な消費を賄うために貯蓄を減らす傾向があります。

2,



→資本所得税を導入すると、貯蓄率は減少する可能性があります。理由は、資本所得に対する課税が利子所得を減少させるため、将来の資産が期待されるほど増えなくなり、現在の貯蓄のインセンティブが減少するからです。つまり、利子所得が課税されることで、貯蓄の利益が減少し、その結果として貯蓄率が低下することが考えられます。

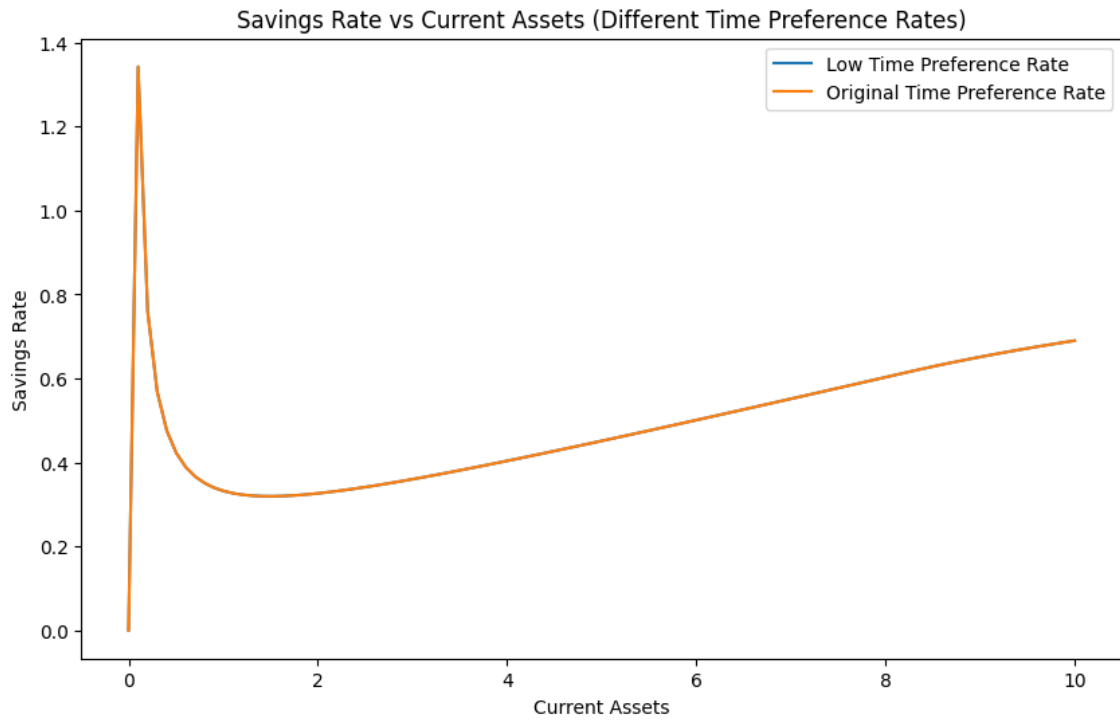
3,



→政府からの一括補助金を導入すると、貯蓄率は増加すると思う。理由は、一括補助金が直接的に消費可能な所得を増やすため、家計は追加の所得の一部を貯蓄に回すと思われるからである。補助金が一律に支給されることで、家計の経済的余裕が増え、将来の不確実性に備えて貯蓄を増やす動機が強まることが考えられる

。

4,



→時間選好率を低くすると ($\beta = 0.5$)、貯蓄率は減少する可能性があります。理由は、時間選好率が低いほど、家計は現在の消費を将来の消費よりも重視する傾向が強くなるからです。つまり、現在の消費を増やし、将来のための貯蓄を減らす行動が増えることが考えられます。これにより、家計は将来のために貯蓄するよりも、現在の消費を優先する傾向が強まるため、貯蓄率が低下することが予想されます。